



こんな「振り返り」も・・・Part 2

前回発行のNO, 19に引き続き、今年度より本校を利用いただいている神河町4校連合小学校の新しいタイプの「振り返り」を紹介します。

神河町の子どもたちは、山林に囲まれた環境で過ごしていますが、山に入って遊んだり木と触れ合ったりする活動はほとんど経験がないそうです。中山間部の子ということもあり、昨年度までは、「いえしま自然体験センター」で自然学校を実施し、海での活動を中心に進めておられました。今年度は、木と触れ合う活動や体験を重視して、プログラムを考えられていました。4日目の個人選択活動（枝打ち体験からの「ひのきキーホルダーづくり」、「草木染め」、竹伐採からの「竹細工」、「木工クラフト」の4種類）後に、「いろいろな体験活動を通して山の自然に親しみ、仲間と協力してやりとげる喜びを味わおう」という自然学校の目的を集約した『作品発表会』が、大屋根広場で行われました。個人選択活動だけなら取り組んでいる学校は増えてきていますが、自分以外の活動でどんなことをしたのか、気になるところであり、「自分もそれらを作りたい」という気持ちになるような発表会を展開されていました。

それぞれが一日かけて作った作品だけに愛着があり、大切に両手で持つての発表会に、見ている子どもたちからは大きな拍手が起こっていました。発表内容は、下記のとおりです。



木の枝をのこぎりで切って、材料集めから始めたひのきキーホルダーの班は、代表3人が前に出てどうやって作ったのか、工夫した所や難しかった点を発表しました。

タマネギの皮を使ってバンダナを作った草木染めの班は、全員で前に出てきて、一斉にそのバンダナを見せました。見ている子どもたちからは、「オー」という声が出ました。作り方の説明や何で染めたかのクイズを出すなど工夫のある発表でした。

竹の伐採から始めた竹細工の班は、初めての経験を語っていました。見慣れた竹でも自分の手を加えることで、カップにもキーホルダーにも弓矢にも変身させることが出来た喜びを報告していました。

木工クラフトの班は、テーマを「南但馬の大自然に生きる！生き物アートクラフト！」とし、世界に一つだけの作品を作りました。空飛ぶ木馬やたこも作っていました。みんな、誇らしげな顔で発表をしていました。



体験活動の振り返りについては、「生きる力を育む自然学校 ～自然等との感動的な出会い、集団での学びと連帯感、社会的自立へのステップ～」(平成20年3月発行)に、下記のとおり記載されています。

＜体験活動を振り返り、意味を考えることを大切にする＞ (P13から引用)

体験活動を整理し、振り返って、その意味を把握することが可能になる時期である。体験は一度きりであるが、繰り返し時間をかけて、体験の全体を振り返り、意味を考えることを通して、体験活動の価値はより高いものになっていく。そのためには、体験活動のその折々の様子を資料として保持するなどして、振り返りを可能にする手立てを工夫することが大切である。また、体験活動の意味を把握するために、自分なりに整理し、感じたことを文章にさせて、意味を考えたり、友達と共有することも重要である。

神河町連合小学校の場合、「振り返りを可能にする手立て」が『作品発表会』であり、友だちの発表を聞くことで、「友達と共有する」こととなります。

平成 26 年度主催事業紹介 Part 2 第 2 回遊友体験活動事業



7月12日(土)に、ひょうご森のインストラクター朝来支部長である波多野氏と福島氏を講師に迎え、82名の参加者のもと、第2回遊友体験活動事業「初夏の里山を楽しもう!水辺の生き物さがし」を実施しました。この遊友体験活動事業は、広く県民に自然とふれあい、自然を五感で感じ取れる様々な体験活動の機会を提供することにより、気軽に環境について学べる場としての地域に開かれた、南但馬自然学校を目指しています。主な活動場所は、「けろトープ」と「雨乃宮の池及びじゃぶじゃぶ池」との2ヶ所です。参加者は、けろトープにおいては、ミズスマシ、サワガニ、タニシ、シオカラトンボ、オタマジャクシ、ゲンゴロウ、イモリ等色々な生き物を観察することができ、あちこちで歓声があがるなど好評でした。また、雨乃宮の池では、モリアオガエルの卵やオタマジャクシが水面をあちこちで揺らすほど大量に生息しており、多くの参加者には印象的だったようです。じゃぶじゃぶ池では、絶滅危惧種ⅠB類のナガレホトケドジョウが見つかり、学習会で全体の場でも紹介されました。講師の先生から、「におい」をかぐことの大切さや、木の幹を足で蹴り昆虫を下に落とす採取方法を教えてもらい、早速実践していた子どもたちがいました。このような野外体験を通して、親子のふれあいを深めるとともに、自然の素晴らしさやそこに棲む生き物に興味を持つ子どもたちが増えてくれることを期待したいものです。



6月や7月、9月上旬の自然学校では、この事業と同じような活動を楽しむことができます。

自然学校講座(指導者入門)参加者募集中!



8月26日(火)から2泊3日で、自然学校の趣旨や指導者の役割を理解するとともに、野外体験活動の実習を通して指導者としての資質能力を高めることを目的に「自然学校講座」を実施します。指導補助員(リーダー)を目指す大学生等が多いですが、先生方の受講も大いに歓迎します。全日程参加を原則としていますが、1日だけの受講も可能です。2学期利用校で、指導補助員予定者に参加の呼びかけをお願いします。



☆昨年度の参加者の感想☆

・初めて参加させてもらって、**リスクマネジメント**の甲斐先生の話はとても勉強になりました。以前にも話を聞いたことがあったのですが、実践もまじえてお話を聞くことができ良かったです。**プログラムにもすごくゆとりがあり、ほかの参加者の方たちともたくさん交流できたので良かったです。**

・実践に移る前に、**細やかな説明をしてくださり分かりやすかった**ので、想像しやすく実践を行いやすかったです。**目的もはっきりしていたので、皆で協力してアクティビティを行う**ことができました。私はリーダー経験がなく、10月に初めてリーダーをやらせていただくのですが、本講座を受けたことで、子どものリスクマネジメントや野外炊事の基本を学べ、**不安が軽減**しました。

詳しくは、南但馬自然学校のホームページをご覧ください。

編集後記

自然学校は、「活動ありき」ではありません。活動からのイメージはあるかもしれませんが、先生方の考え方や子どもへの思いによって、色々な活動を新たに創り出すことが出来ます。そんなことを意識して、今回の指導課だよりを作成しました。(文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也)